

HP Operations エージェント

Windows®、HP-UX、Linux、Solaris、AIX向け

ソフトウェアバージョン: 11.10

ライセンスガイド

ドキュメントリリース日: 2012年8月

ソフトウェアリリース日: 2012年8月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2010 - 2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

本製品には 'zlib' 汎用圧縮ライブラリのインタフェースが使用されています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの取得登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>(英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [**New users - please register**] リンクをクリックします。

適切な製品 サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

HPソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HPソフトウェアサポートWebサイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポートケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDの登録は、次の場所で行います。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>(英語サイト)

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

目次

ライセンスガイド.....	1
目次.....	5
はじめに.....	1
評価ライセンス.....	1
延長ライセンス.....	1
恒久ライセンス.....	1
HP Operations エージェント 11.10 の新しい機能.....	2
評価ライセンスまたは恒久ライセンスの設定.....	3
HP Operations エージェント 11.10 の LTU.....	5
HP Operations OS Inst Adv SW LTU.....	5
HP Operations OS Inst Performance LTU.....	6
HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU.....	6
HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU.....	7
Glance Software LTU.....	8
Glance Pak Software LTU.....	9
LTU の比較表.....	9
各 LTU で使用可能なアドイン モジュール.....	10
プロファイルファイルを使用したライセンスの適用.....	13
プロファイルファイルを使用したスタンドアロン ノード へのライセンスの適用.....	13
リモートの HPOM for Windows からのプロファイルファイルを使用したライセンスの適用.....	14
リモートの HPOM for UNIX/Linux からのプロファイルファイルを使用したライセンスの適用.....	15
評価ライセンスまたは恒久ライセンスの適用.....	17
手動によるノード への適用.....	17
ライセンスの詳細の例.....	19
管理サーバーからの一括適用.....	19
HPOM for Windows コンソールからの適用.....	19

UNIX/Linux 9.xx の HPOM コンソールからの適用.....	20
HPOM for UNIX 8.35 コンソールからの適用.....	20
評価ライセンスの有効期限の延長.....	21
アラートの生成.....	22
アラートの無効化.....	23
HP Operations エージェント 11.10 へのアップグレード.....	23
恒久ライセンスの削除.....	24
既存の LTU の変更.....	27
例 1.....	27
例 2.....	27

第1章

はじめに

インストールの種類に基づいて、HP Operations エージェントは、次のいずれかのタイプのライセンスで使用できます。

- 評価ライセンス
- 延長ライセンス
- 恒久ライセンス

oalicense ユーティリティは、ライセンスを有効にするために役立ちます。また、oalicense ユーティリティを使用すると、一方のライセンスタイプからもう一方に移行できます。

評価ライセンス

スタンドアロン ノードに製品をインストールする場合、ノードでライセンスを設定することで HP Operations エージェントが使用可能となります。デフォルトライセンスはなしに設定されています。評価ライセンスでは、HP Operations エージェントのすべてのモジュールとコンポーネントが60日間有効になります。評価ライセンスは60日後に有効期限が切れ、製品は無効になります。製品の使用を継続するには、恒久ライセンスを適用するか、または評価ライセンスを延長します。

延長ライセンス

評価ライセンスの有効期限を延長すると、HP Operations エージェントを評価モードでより長期間使用できます。評価ライセンスを延長すると、このLTUで提供される機能をさらに60日使用することができます。評価ライセンスの延長は2回まで可能です。評価ライセンスを3回延長しようとすると、ライセンスの最大延長回数に達していることを示すエラーメッセージが表示されます。

恒久ライセンス

HP Operations エージェントの恒久ライセンスには、特定の期限はありません。このライセンスを使用する場合、必要に応じて、利用可能な**使用ライセンス (LTU: Licenses to Use)**から選択できます。

HP Operations エージェント 11.10 は、次のアドインモジュールにより、リアルタイム診断と監視機能を提供します。

- リアルタイムメトリックアクセス (RTMA) - リアルタイムベースのシステムパフォーマンスメトリックへのアクセスを可能にします。cprsh ユーティリティを使用して、リモートマシンのパフォーマンスメトリックをリアルタイムで監視できます。これは、RTMAのコンポーネントにあります。
- リアルタイム計測 (RTM) - HP Performance Manager 9.00 の [Diagnostic View (診断ビュー)] タブで表示される豊富なインターフェイスを使用して、システムのパフォーマンスメトリックをリアルタイムに監視できます。

- GlancePlus ソフトウェア - グラフィカルな表形式で表されるデータを使用して、システムのパフォーマンスをリアルタイムに監視できます。

異なる LTU を使用して、上記のすべてのモジュールを使用することも、それらを組み合わせて使用することもできます。LTU については、「HP Operations エージェント 11.10 の LTU」を参照してください。

HP Operations エージェント 11.10 の新しい機能

次の表で、各シナリオに使用する新しいライセンスポリシーを示します。

表 4:新しいライセンスの動作

シナリオ	評価ライセンス	恒久ライセンス	動作するコンポーネント
HP Operations エージェントをスタンドアロンノードにインストール。	<ul style="list-style-type: none"> • なし (デフォルト)。 • 必要に応じて、プロファイルファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は評価に設定されています。 	<ul style="list-style-type: none"> • なし (デフォルト)。 • 必要に応じて、プロファイルファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は恒久に設定されています。 	「LTU の比較表」(9 ページ)を参照してください。
HP Operations エージェントを HPOM コンソールからリモートにインストール。	<ul style="list-style-type: none"> • なし (デフォルト)。 • 必要に応じて、プロファイルファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は評価に設定されています。 	<ul style="list-style-type: none"> • HP Operations OS Inst Adv SW LTU (デフォルト)。 • 必要に応じて、プロファイルファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は恒久に設定されています。 	「LTU の比較表」(9 ページ)を参照してください。
HP Operations エージェントバージョン 8.xx のあるノードにインストール。	<ul style="list-style-type: none"> • なし (デフォルト)。 • 必要に応じて、プロファイルファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は評価に設定されています。 	<ul style="list-style-type: none"> • HP Operations OS Inst Adv SW LTU (デフォルト)。 • 必要に応じて、プロファイルファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は恒久に設定されています。 	「LTU の比較表」(9 ページ)を参照してください。

<p>ノードの以前の 11.xx バージョンから HP Operations エージェント 11.10 にアップグレード。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 11.10 バージョンのインストール後も、既存の評価ライセンスが動作します。 必要に応じて、プロファイルファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は評価に設定されています。 	<ul style="list-style-type: none"> 11.10 バージョンのインストール後も、既存の恒久ライセンスが動作します。 必要に応じて、プロファイルファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は恒久に設定されています。 	<p>「LTU の比較表」(9 ページ)を参照してください。</p>
<p>ノードの Glance Plus Software 5.xx から HP Operations エージェント 11.10 に移行。</p>	<ul style="list-style-type: none"> なし (デフォルト)。 必要に応じて、プロファイルファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は評価に設定されています。 	<ul style="list-style-type: none"> Glance Software LTU (デフォルト)。 必要に応じて、プロファイルファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は恒久に設定されています。 	<p>「LTU の比較表」(9 ページ)を参照してください。</p>
<p>ノードの Performance エージェント 5.xx バージョンから HP Operations エージェント 11.10 に移行。</p>	<ul style="list-style-type: none"> なし (デフォルト)。 必要に応じて、プロファイルファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は評価に設定されています。 	<ul style="list-style-type: none"> HP Operations OS Inst Performance LTU (デフォルト)。 必要に応じて、プロファイルファイルにライセンスを設定します。それぞれの LTU は恒久に設定されています。 	<p>「LTU の比較表」(9 ページ)を参照してください。</p>

評価ライセンスまたは恒久ライセンスの設定

評価ライセンスまたは恒久ライセンスは、以下の方法で設定できます。

- スタンドアロン ノードまたは管理サーバーからの適用:**この方法では、LTU ごとに `oalicense` コマンドを使用し、ノードの恒久ライセンスを手動で有効にします。

スタンドアロン ノードに Operations エージェント 11.10 をインストールすると、ライセンスのデフォルト設定はなしとなります。ライセンスを適用した場合にのみ、オペレーション監視コンポーネントとパフォーマンス収集コンポーネントが開始されます。基本的な HP Operations エージェント プロセスは、ライセンスを設定しなくてもノードで機能します。HPOM が存在しない環境でスタンドアロンサーバーに HP Operations エージェントをインストールすると、基本的な HP Operations エージェントプロセスのみが有効となります。

HPOM コンソールを使用してリモート インストールを行うと、恒久ライセンスがノードで有効になります。

詳細情報は、「[評価ライセンスまたは恒久ライセンスの適用](#)」を参照してください。

- プロファイルファイルの使用:**この方法では、プロファイルファイルの利用可能な LTU リストから、恒久ライセンスまたは評価ライセンスを有効にできます。HP Operations エージェントのインストールを開始する前に、テキストファイルまたは設定ファイルで LTU を指定します。詳細情報は、「[プロファイルファイルを使用した評価ライセンスまたは恒久ライセンスの適用](#)」を参照してください。

第2章

HP Operations エージェント 11.10 の LTU

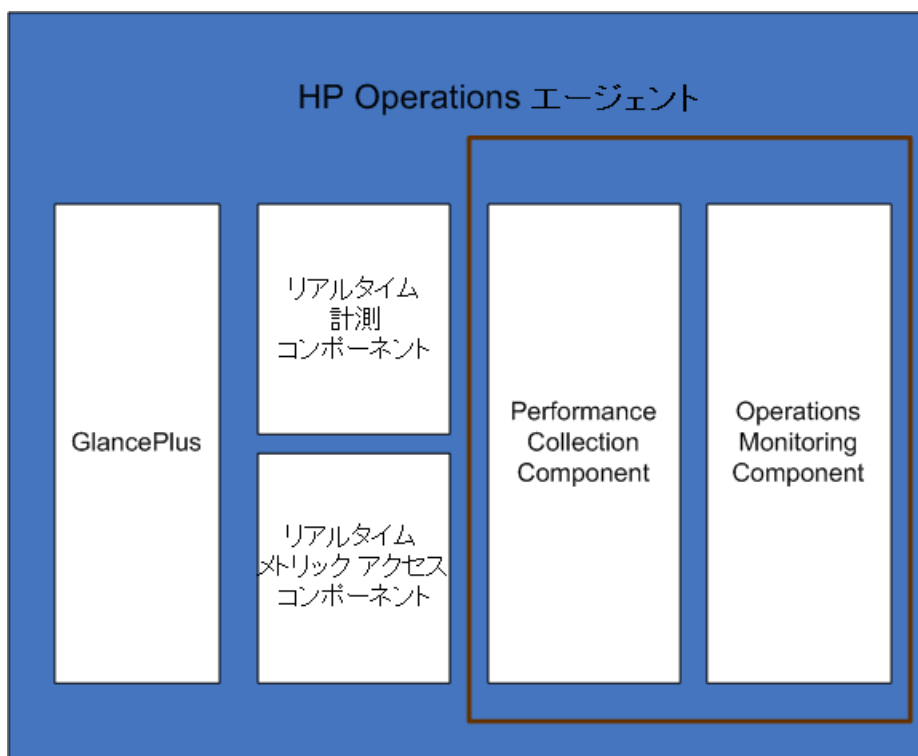
HP Operations エージェント製品 次のいずれかの使用ライセンス (LTUs) を適用できます。

- HP Operations OS Inst Adv SW LTU
- HP Operations OS Inst Performance LTU
- HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU
- HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU
- Glance Software LTU
- Glance Pak Software LTU

HP Operations OS Inst Adv SW LTU

この LTU では、RTM、RTMA、GlancePlus 以外の HP Operations エージェントのコンポーネントをすべて使用できます。

図 1 :HP Operations OS Inst Adv SW LTU で有効になるコンポーネント



追加のバージョン

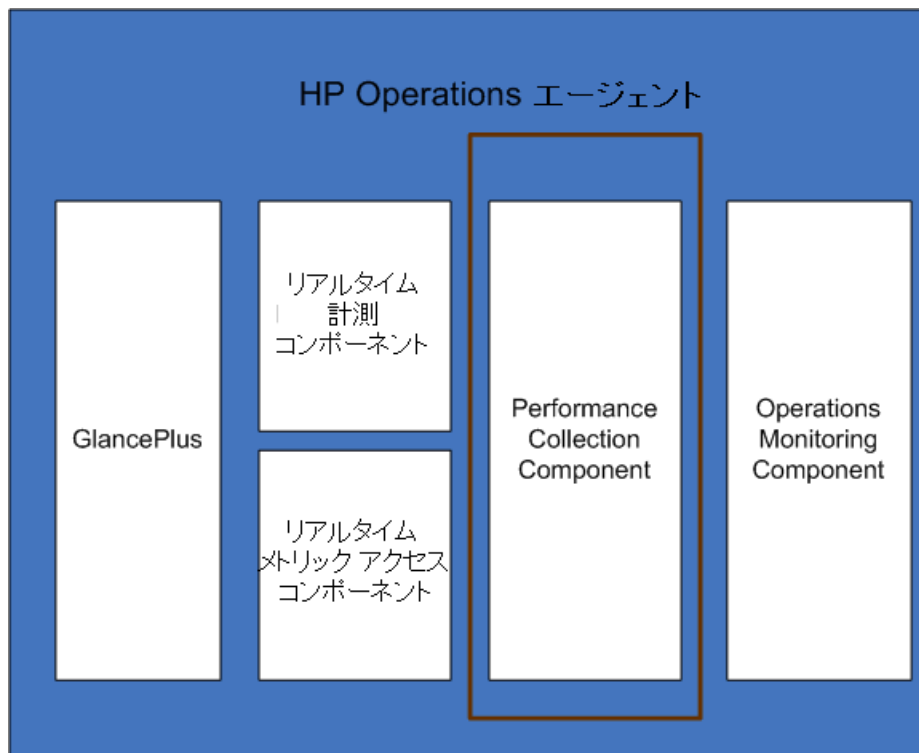
HP Operations OS Inst Adv SW LTU は次の追加バージョンで使用できます。

- **HP Operations OS Inst Adv NP FO SW LTU**: フェールオーバー クラスタ設定で実行されているシステムを監視する場合、クラスタ内のすべてのノードに HP Operations エージェントをインストールする必要があります。HP Operations OS Inst Adv NP FO SW LTU は、アクティブではないクラスタ内のノードでも使用できます。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。
- **HP Operations OS Inst Adv NP DV SW LTU**: (計画や評価の目的で) テストシステムに HP Operations エージェントをインストールする場合、HP Operations OS Inst Adv NP DV SW LTU を使用します。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

HP Operations OS Inst Performance LTU

この LTU では、HP Operations エージェントの Performance Collection Component のコンポーネントのみを使用できます。この LTU では、スタンドアロンシステムのパフォーマンスを監視できます。

図 2 :HP Operations OS Inst Performance LTU で有効になるコンポーネント



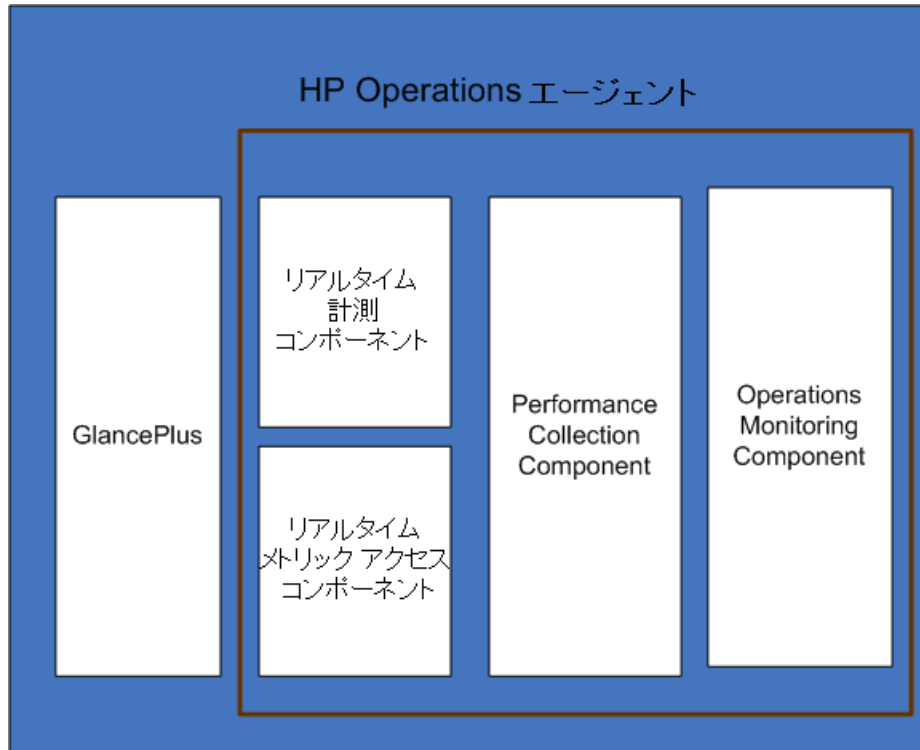
HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU

この LTU では、RTM コンポーネントと RTMA コンポーネントを含む HP Operations エージェントの機能をすべて使用できますが、GlancePlus ソフトウェアは含まれません。この LTU を適用したら、HP Operations エージェント 11.10 を HP Performance Manager 9.00 に統合して、HP Operations エージェントが複数のノードから収集するリアルタイムのシステムデータを、HP Performance Manager 9.00 の [Diagnostic View (診断ビュー)] タブで表示できます。さらに、cpsh ユーティリティを使用して、さまざまなノードから HP Operations エージェントが収集するリアルタイムのシステムデータを表示できます。

このLTUを適用する前に、HP Operations OS Inst Adv SW LTU がすでにノードに適用されていることを確認してください。

図3は、HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU で有効になるコンポーネントを赤枠で示しています。

図3:HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU で有効になるコンポーネント



追加のバージョン

HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU は次の追加バージョンで使用できます。

- **HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP FO LTU**: フェールオーバー クラスタ設定で実行されているシステムを監視する場合、クラスタ内のすべてのノードにHP Operations エージェントをインストールする必要があります。HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP FO LTU は、アクティブではないクラスタ内のノードでも使用できます。このLTUは、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。
- **HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP DV LTU**: (計画や評価の目的で) テストシステムにHP Operations エージェントをインストールする場合、HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP DV LTU を使用します。このLTUは、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU

このLTUは、スタンドアロンサーバーにある既存のHP Operations OS Inst Performance LTUをHP Operations OS Inst Adv SW LTUにアップグレードして、RTM、RTMA、GlancePlusのコンポーネント以外のHP Operations エージェントの機能を使用可能にします。このLTUは、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

追加のバージョン

HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU は次の追加バージョンで使用できます。

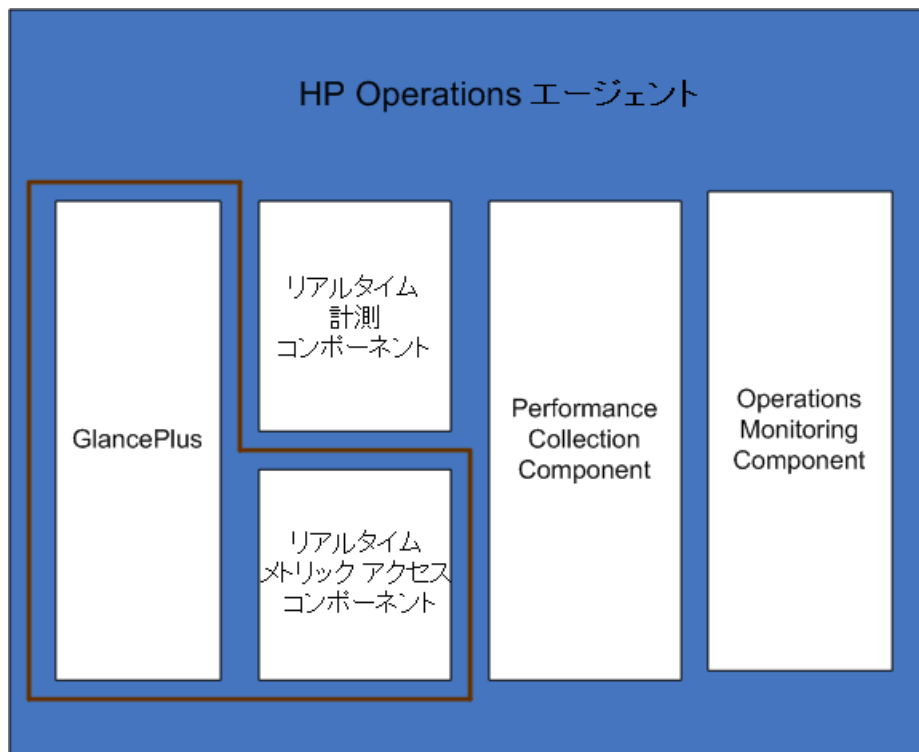
- **HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP FO SW LTU:** フェールオーバー クラスタ設定で実行されているシステムを監視する場合、クラスタ内のすべてのノードに HP Operations エージェントをインストールする必要があります。HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP FO SW LTU は、アクティブではないクラスタ内のノードでも使用できます。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。
- **HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP DV SW LTU:** (計画や評価の目的で) テスト システムに HP Operations エージェントをインストールする場合、HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP DV SW LTU を使用します。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

Glance Software LTU

注: GlancePlus ソフトウェアは UNIX/Linux プラットフォームでのみサポートされているため、この LTU は UNIX/Linux ノードにのみ適用できます。

この LTU は、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネントのみをノードで有効にします。この LTU のみをノードで有効にする場合、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネントのみをノードで使用できます。この LTU を使用すると、cpsh ユーティリティを使用して、さまざまなノードから HP Operations エージェントが収集するリアルタイムのシステム データを表示できます。HP Operations エージェントのその他の標準機能は使用できません。

図 4 : Glance Software LTU で有効になるコンポーネント

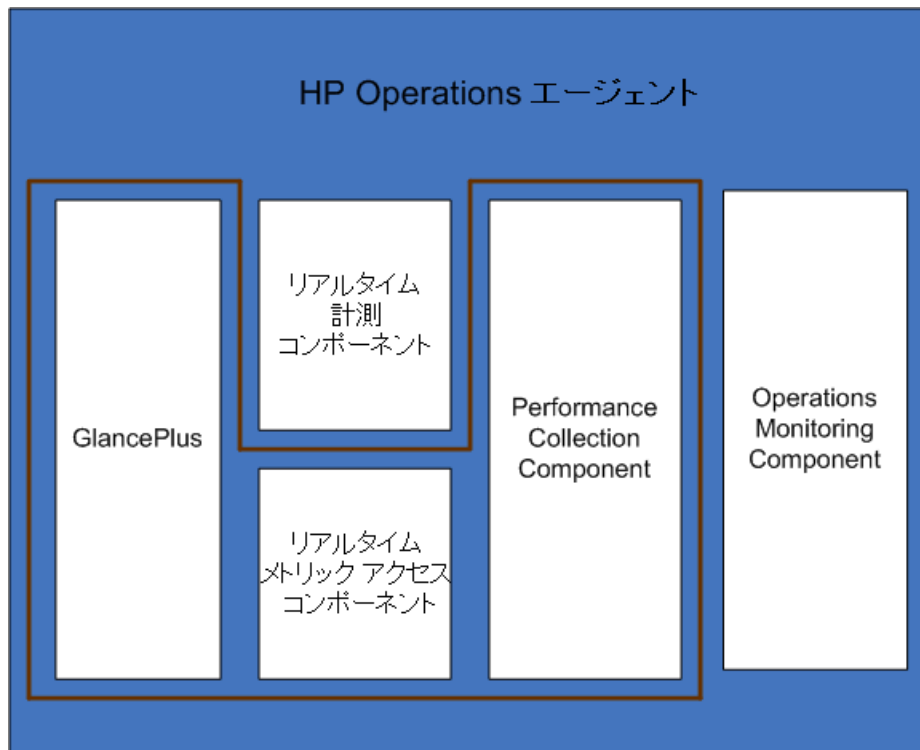


Glance Pak Software LTU

注: GlancePlus ソフトウェアは UNIX/Linux プラットフォームでのみサポートされているため、この LTU は UNIX/Linux ノードにのみ適用できます。

この LTU では、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネント、および HP Operations エージェントの Performance Collection Component のコンポーネントのみを使用できます。この LTU を使用すると、cpsh ユーティリティを使用して、さまざまなノードから HP Operations エージェントが収集するリアルタイムのシステム データを表示できます。

図 5 :Glance Pak Software LTU で有効になるコンポーネント



LTU の比較表

表 1 は、各 LTU で使用できる HP Operations エージェントのコンポーネントを示しています。

表 1:LTU の比較表

LTU とコンポーネント	運用監視コンポーネン	Performance Collection Component	RTM	RTMA	Glance Plus

ト					
HP Operations OS Inst Adv SW LTU	可能	可能	X	X	X
HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU	可能	可能	可能	可能	X
HP Operations OS Inst Performance LTU	X	可能	X	X	X
HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU	可能	可能	X	X	X
UNIX/Linux ノードのみ。Glance Software LTU	X	X	X	可能	可能
UNIX/Linux ノードのみ。Glance Pak Software LTU	X	可能	X	可能	可能

各 LTU で使用可能なアドイン モジュール

評価ライセンスでは、HP Operations エージェントとRTM コンポーネント、RTMA コンポーネント、GlancePlus ソフトウェアをノードで有効にできます。ただし、インストール後 60 日以内に恒久ライセンスを適用しないと(または評価ライセンスを延長しないと)、HP Operations エージェント(およびRTM、RTMA、GlancePlus)は使用できなくなります。6 種類の異なる LTU から選択できます。これらのいずれかの LTU を使用すると、HP Operations エージェントをアドイン モジュール (RTM、RTMA、GlancePlus) と組み合わせてノードで有効にできます。

「各 LTU で使用可能なアドイン モジュール」(10ページ)表 2 は、HP Operations エージェントの各 LTU で使用可能なアドイン モジュールを示しています。

表 2:各 LTU でのアドイン モジュール

LTU	GlancePlus ソフトウェア	RTM	RTMA
HP Operations OS Inst Adv SW LTU	不可	不可	不可
a) HP Operations OS Inst Performance LTU	不可	不可	不可
HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU	不可	不可	不可
HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU	不可	可能	可能
b) Glance Pak Software LTU	可能	不可	可能
c) Glance Software LTU	可能	不可	可能

a) HP Operations OS Inst Performance LTU のみを有効にする場合、Performance Collection Component のコンポーネント以外の HP Operations エージェントの標準機能は使用できません。

b) Glance Pak Software LTU のみを有効にする場合、Performance Collection Component、GlancePlus ソフトウェアおよび RTMA コンポーネント以外に、HP Operations エージェントの標準機能は使用できません。

c) Glance Software LTU のみを有効にする場合、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネント以外に、HP Operations エージェントの標準機能は使用できません。

第3章

プロファイルファイルを使用したライセンスの適用

スタンドアロンノードまたは、HPOM 管理サーバーからのリモート インストールにプロファイルファイルを使用することで、評価ライセンスまたは恒久ライセンスのいずれかを設定することができます。インストールを開始し、必要なライセンスを有効にする前に、テキストファイルまたは設定ファイルで LTU を指定します。

プロファイルファイルの詳細情報は、インストールガイドの「プロファイルファイルを使用した HP Operations エージェントのインストール」を参照してください。

プロファイルファイルを使用したスタンドアロン ノードへのライセンスの適用

Windows ノードまたは UNIX/Linux ノードへのインストールを開始する前にテキストファイルにライセンス要件を指定しておく、インストールはインストールプロセスにそのファイルを使用します。ライセンスのタイプを指定して、インストールを開始できます。

プロファイルファイルを使用して評価ライセンスまたは恒久ライセンスをスタンドアロンノードに適用するには、次の手順を実行します。

1. 管理者権限を持つシステムにログオンします。
2. テキストファイルを開いて、次のリストから要件に合わせて LTU を追加します。
 - `set eaagt.license:HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
 - `set eaagt.license:Glance_Software_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
 - `set eaagt.license:HP_Ops_OS_Inst_to_Realtime_Inst_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
 - `set eaagt.license:HP_Operations_OS_Inst_Performance_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
 - `set eaagt.license:ALL=PERMANENT/EVALUATION`

プロファイルファイルを使用してインストールを開始する前にテキストファイルのリストに記載された LTU のみを設定できます。

注: 記載された LTU を要件に合わせて追加する必要があります。

RTM、RTMA、GlancePlus ではなく、HP Operations エージェントのすべてのコンポーネントを使用する必要がある場合は、テキストファイルに `set eaagt.license:HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION` のみを追加します。

リストに記載されているすべてのライセンスを使用する必要がある場合は、テキストファイルに `set eaagt.license: ALL=PERMANENT/EVALUATION` を追加します。インストールを開始する前にテキストファイルのリストに記載された LTU のみを設定できます。

LTU については、「[HP Operations エージェントの LTU](#)」を参照してください。

3. テキスト ファイルを保存します。
4. HP Operations エージェントのインストールメディアのルート ディレクトリから、以下のコマンドを実行します。

Windows ノードの場合

```
cscript oainstall.vbs -install -agent -agent_profile
```

または

```
cscript oainstall.vbs -i -a -agent_profile
```

UNIX または Linux ノードの場合

```
./oainstall.sh -install -agent -agent_profile
```

または

```
./oainstall.sh -i -a -agent_profile
```

リモートの HPOM for Windows からのプロファイル ファイルを使用したライセンスの適用

インストールを開始する前に、任意の設定を設定ファイルに指定し、インストール中にその設定ファイルを使用することができます。ライセンスのタイプを指定して、インストールを開始できます。

評価ライセンスまたは恒久ライセンスを HPOM for Windows から適用するには、以下の手順に従います。

1. 管理者として、管理サーバーにログオンします。
2. 管理サーバーの以下の場所から、サンプルの設定ファイルを取得します。`%ovsharedir%\conf\PMAD\agent_install_defaults.cfg.sample`
3. `agent_install_default.cfg.sample` を `agent_install_default.cfg` として同じ場所に保存します。
4. `agent_install_defaults.cfg` ファイルをテキスト エディタで開いて、次のリストから要件に合わせて LTU を追加します。

[`eaagt.license`]

- `HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
- `Glance_Software_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
- `HP_Ops_OS_Inst_to_Realtime_Inst_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`

- HP_Operations_OS_Inst_Performance_LTU=PERMANENT または EVALUATION
- ALL=PERMANENT または EVALUATION

プロファイルファイルを使用してインストールを開始する前にテキスト ファイルのリストに記載された LTU のみを設定できます。

注: LTU を要件に合わせて追加する必要があります。

RTM、RTMA、GlancePlus ではなく、HP Operations エージェントのすべてのコンポーネントを使用する必要がある場合は、テキスト ファイルに `set eaagt.license:HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION` のみを追加します。

すべてのライセンスを選択する場合は、テキスト ファイルに `set eaagt.license:ALL=PERMANENT` または `EVALUATION` を追加します。

LTU については、「HP Operations エージェントの LTU」を参照してください。

5. ライセンスの設定を更新した後は、HPOM コンソールからリモートで、またはコマンドラインを使用して HP Operations エージェントのインストールを開始します。詳細については、『*HP Operations エージェント インストールガイド、バージョン 11.10*』を参照してください。

リモートの HPOM for UNIX/Linux からのプロファイルファイルを使用したライセンスの適用

インストールを開始する前に、任意の設定を設定ファイルに指定し、インストール中にその設定ファイルを使用することができます。ライセンスのタイプを指定して、インストールを開始できます。

注: プロファイルファイルを使用している場合は、UNIX/Linux の HPOM に修正プログラム QCCR1A138587 をインストールする必要があります。この修正プログラムの入手方法については、HP のサポートにお問い合わせください。HPOM for Windows を使用している場合は、追加の修正プログラムは必要ありません。

評価ライセンスまたは恒久ライセンスを HPOM for UNIX/Linux から適用するには、以下の手順に従います。

1. root 権限を使用して、HPOM for UNIX/Linux にログオンします。
2. 管理サーバーの以下の場所から、サンプルの設定ファイルを取得します。`/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/bbc_inst_defaults.sample.`
3. `bbc_inst_defaults.sample` ファイルを `bbc_inst_defaults` ファイルとして同じ場所に保存します。
4. `bbc_inst_defaults` ファイルをテキスト エディタで開いて、次のリストから要件に合わせて LTU を追加します。

```
[eaagt.license]
```

- `HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
- `Glance_Software_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
- `HP_Ops_OS_Inst_to_Realtime_Inst_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
- `HP_Operations_OS_Inst_Performance_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION`
- `ALL=PERMANENT/EVALUATION` (すべてのLTUを使用する場合はこのオプションを使用)

注: LTUを要件に合わせて追加する必要があります。

RTM、RTMA、GlancePlus ではなく、HP Operations エージェントのすべてのコンポーネントを使用する必要がある場合は、テキストファイルに `set eaagt.license:HP_Operations_OS_Inst_Adv_SW_LTU=PERMANENT` または `EVALUATION` のみを追加します。

すべてのライセンスを選択する場合は、テキストファイルに `set eaagt.license:ALL=PERMANENT/EVALUATION` を追加します。

LTUについては、「[HP Operations エージェントのLTU](#)」を参照してください。

5. ライセンスの設定を更新した後は、HPOM コンソールからリモートで、またはコマンドラインを使用して HP Operations エージェントのインストールを開始します。詳細については、『*HP Operations エージェント インストールガイド、バージョン 11.10*』を参照してください。

第4章

評価ライセンスまたは恒久ライセンスの適用

インストールの種類に基づいて、評価ライセンスまたは恒久ライセンスをノードに設定する必要があります。評価ライセンスはインストール後 60 日間有効になり、期間終了後は製品 (およびすべてのアドインモジュール) はそのノードでの動作を停止します。製品を使用し続けるには、ノードで恒久ライセンスを有効にする必要があります。

手動によるノードへの適用

恒久ライセンスまたは評価ライセンスをスタンドアロンの HP Operations エージェントノードに適用するには、次の手順を実行します。

1. ノードに HP Operations エージェントをインストールします。

HP Operations エージェントを使用するには、評価ライセンスまたは恒久ライセンスを設定する必要があります。

ヒント: HPOM 管理環境にノードがある場合、`-s` オプションおよび `-cs` オプションを使用して HP Operations エージェントをインストールし、ノードの管理サーバーを設定できます。これらのオプションを使用すると、HP Operations OS Inst Adv SW LTU を有効にするためのライセンスツールが起動します。

2. ライセンスを適用するには、コマンド プロンプト (シェル) に進みます。
3. 目的の LTU の適切なライセンスを有効にするには、次を実行します。
 - HP Operations OS Inst Adv SW LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type EVALUATION "HP Operations OS Inst Adv SW LTU"
```

このコマンドにより、HP Operations エージェントの運用監視コンポーネントおよび Performance Collection Component の評価ライセンスが適用されます。評価ライセンスの有効期限が切れると、アドインモジュールは機能を停止します。
 - 運用監視コンポーネントと Performance Collection Component で RTM コンポーネントと RTMA コンポーネントを使用するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU"
```

このコマンドにより、すべての HP Operations OS Inst Adv SW LTU の恒久ライセンスが HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU にアップグレードされ、RTM コンポーネントと RTMA コンポーネントがノードで有効になります。評価ライセンスの有効期限が切れると、その他のアドインモジュール (GlancePlus) は機能を停止します。
 - HP Operations OS Inst Performance LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "HP Operations OS Inst Performance
LTU"
```

このコマンドにより、HP Operations エージェントの Performance Collection Component の恒久ライセンスが適用されます。評価ライセンスの有効期限が切れると、運用監視コンポーネントおよびその他のアドイン モジュールは機能を停止します。

- UNIX/Linux ノードのみ。Glance Pak Software LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "Glance Pak Software LTU"
```

このコマンドにより、Performance Collection Component、GlancePlus ソフトウェア、RTMA コンポーネントにのみ恒久ライセンスが適用されます。

- UNIX/Linux ノードのみ。Glance Software LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "Glance Software LTU"
```

このコマンドにより、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネントにのみ恒久ライセンスがノードで適用されます。

4. ノードの LTU の詳細を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -get -all
```

このコマンドは、LTU の詳細を次の形式で表示します。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
このコマンドは、次の詳細を表示します。				
LICENSE NAME: LTU の名前				
TYPE: LTU のタイプ (恒久、評価、延長)				
ACTIVATION: LTU が有効にされた日付 (mm/dd/yyyy 形式)				
EXPIRY: ライセンスの有効期限 (タイプが恒久でない場合)				
EXTN: 評価ライセンスの延長回数				

5. 次のコマンドで、ノード上のすべてのプロセスを起動します。

```
opcagt -start
```

<著者によるメモ-詳細情報が必要>必要に応じて、HPOM 管理環境にあるノードで、恒久ライセンスまたは評価ライセンスを有効にできます。評価ライセンスをノードで有効にするには、次のいずれかを実行します。

- ノードにローカルでログオンし、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type EVALUATION "<LTU 名>"
```


- 複数のノードでツールを使用して評価ライセンスを有効にするには、次の手順を実行します。
 - a. HPOM 管理サーバーにログオンします。
 - b. 次の詳細を指定して、新しいツールを作成します。
 - コマンド呼び出しまたはツール呼び出しを `oalicense` に設定します。
 - パラメータを次のように設定します。
`-set -type EVALUATION "<LTU 名>"`
 - 選択したノードにターゲットを設定します。
 - c. 目的のノードにツールを実行します。

ライセンスの詳細の例

`oalicense` コマンドに `-get` オプションを使用すると、ノードにある LTU の詳細を表示できます。`-get` オプションに `-all` オプションを使用すると、ノードにあるすべての LTU の詳細を表示できます。または、引数に LTU 名を指定して、ノードにある特定の LTU の詳細を表示できます。

恒久タイプの HP Operations OS Inst Adv SW LTU が有効になっている場合、`oalicense -get "HP Operations OS Inst Adv SW LTU"` コマンドを実行すると、次のメッセージが表示されます。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
HP Operations OS Inst Adv SW LTU	PERMANENT	09/08/2012	11/08/2012	N/A

管理サーバーからの一括適用

HP Operations エージェントを HPOM 管理サーバーからリモートでノードにインストールしたり、管理サーバーの詳細を指定して手動でノードにインストールしたりする場合、評価ライセンスまたは恒久ライセンスを設定する必要があります。異なるタイプのライセンスをノードで有効にする場合、追加の手順を実行する必要があります。

HPOM for Windows コンソールからの適用

ノードでデフォルトの LTU 以外の LTU を有効にする場合、次の手順を実行します。

1. HPOM 管理サーバーにログオンします。
2. コンソールツリーで **[ツール]** を展開し、次に **[HP Operations エージェント]** をクリックします。HP Operations エージェント 11.10 配布パッケージで使用可能なツールのリストが詳細ペインに表示されます。
3. HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU の恒久ライセンスを有効にするノードで、Set Realtime Permanent License ツールを起動します。
4. Glance Software LTU の恒久ライセンスを有効にするノードで、Set Glance Permanent License ツールを起動します。
5. ライセンスを適用するためにツールを起動したら、Restart Agent ツールを起動して、すべてのノードで必要なプロセスを開始する必要があります。

UNIX/Linux 9.xx の HPOM コンソールからの適用

デフォルトの LTU 以外の LTU をノードで有効にするには、`oalicense` コマンドをノード (またはノードのグループ) で実行するツールを作成する必要があります。新しいツールを作成するには、次の手順を実行します。

1. HPOM 操作 UI にログオンします。
2. 左のペインで、ライセンスを適用するノードまたはノード グループを選択します。
3. HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU の恒久ライセンスを有効にするには、右クリックして、**[スタート]** > **[HP Operations エージェント]** > **[Set Glance Permanent License]** の順にクリックします。
4. Glance Software LTU の恒久ライセンスを有効にするには、右クリックして、**[スタート]** > **[HP Operations エージェント]** > **[Set Glance Permanent License]** をクリックします。
5. Restart Agent ツールを起動して、すべてのノードで必要なプロセスを開始します。

HPOM for UNIX 8.35 コンソールからの適用

デフォルトの LTU 以外の LTU をノードで有効にするには、`oalicense` コマンドをノード (またはノードのグループ) で実行するアプリケーション (ツール) を作成する必要があります。新しいツールを作成するには、次の手順を実行します。

1. HPOM for UNIX サーバーにログオンします。
2. HPOM for UNIX コンソールにログオンします。
3. [OVO アプリケーション バンク] ウィンドウに進みます。
4. **[アクション]** > **[アプリケーション]** > **[OVO アプリケーションの追加]** の順にクリックします。[OVO アプリケーションの追加] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. [OVO アプリケーションの追加] ダイアログ ボックスで、次の詳細を指定します。
 - [アプリケーション名] ボックスに名前を指定します。
 - [アプリケーションの呼び出し] ボックスに `oalicense` と入力します。
 - [追加のパラメータ] ボックスで、`-set -type PERMANENT "HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU"` と入力して、HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU を有効にします。`-set -type PERMANENT "Glance Software LTU"` と入力して、Glance Software LTU を有効にします。
 - [オペレータが選択したターゲット ノードで起動] オプションを選択します。
 - [実行ユーザー] セクションで、ノードで HP Operations エージェントを実行しているユーザーのユーザー名とパスワードを指定します。
 - [表示] を **[Window (出力のみ)]** に設定します。
6. **[OK]** をクリックします。

これで、HPOM for UNIX コンソールからアプリケーションを起動できます。ノードでアプリケーションを実行したら、`opcagt -start` コマンドを実行して、必要なプロセスをすべてのノードで起動する必要があります。

評価ライセンスの有効期限の延長

評価ライセンスの有効期限は、60日間ごとに延長することができます。評価ライセンスの有効期限は2回延長できるため、最大180日間製品を評価することができます。

評価ライセンスの有効期限を延長するには、次の手順を実行します。

1. 管理者権限または root 権限でログオンします。
2. 次のいずれかの手順を実行します。
 - **Windows の場合**
%ovinstalldir%bin の場所に移動します。
 - **HP-UX、Linux、Solaris の場合**
/opt/OV/bin の場所に移動します。
 - **AIX の場合**
/usr/lpp/OV/bin の場所に移動します。
3. 評価 LTU の状態を確認するには、次のコマンドを実行します。

Windows の場合

```
oalicense -get -all
```

UNIX/Linux の場合

```
./oalicense -get -all
```

このコマンドにより、システムで有効になっているすべての LTU の詳細が表示されます。これには、すべての評価ライセンスの状態も含まれます。このコマンドは、詳細を次の形式で表示します。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
<LTU_Name>	EVALUATION	<Installation_Date>	<Expiry_Date>	0

評価期限を過ぎても使用する評価 LTU を書き留めます。

4. オプション:コマンドの出力を確認し、(延長する)評価 LTU が60日近く使用されていることを確認します。

注: インストールから60日間経過していない評価 LTU の有効期限を延長する場合、最初の60日の有効期限が実際に終了するまでの残りの日数は破棄されます。評価 LTU を延長した日から開始してさらに60日間だけ LTU を中断することなく使用できます。ただし、評価 LTU の有効期限は2回延長できるため、さらにもう60日間評価製品を使用することができます。

5. 次のコマンドを実行します。

Windows の場合

```
oalicense -extend -type EVALUATION " <LTU 名>"
```

UNIX/Linux の場合

```
./oalicense -extend -type EVALUATION " <LTU 名>"
```

ここで、

<LTU 名> は LTU の名前です。

- LTU の状態を確認するには、次のコマンドを実行します。

Windows の場合

```
oalicense -get -all
```

UNIX/Linux の場合

```
./oalicense -get -all
```

このコマンドは、詳細を次の形式で表示します。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
<LTU_Name>	EVALUATION	<Installation_Date>	<Expiry_Date>	1

LTU の有効期限が、元の有効期限よりも 60 日間延長されたことがわかります。EXTN 列は、LTU の延長回数を示します。

例

インストール後に `oalicense -get -all` コマンドを実行すると、有効になっている LTU のリストが次の形式で表示されます。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
HP Operations OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Aug/2012	0
HP Glance OS Instance LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Aug/2012	0
HP Operations Real-Time UpG OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Aug/2012	0

インストール後に HP Operations OS Instance Software LTU を 60 日延長して `oalicense -get -all` コマンドを実行すると、次の出力が表示されます。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
HP Operations OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Oct/2012	1
HP Glance OS Instance LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Aug/2012	0
HP Operations Real-Time UpG OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2012	02/Aug/2012	0

アラートの生成

`oalicense` コマンドに `-expiryAlerts` オプションを使用すると、評価ライセンスが有効な日数を表示できます。

`ALERT_LTU_EXPIRY_DAYS` 変数を使用すると、HP Operations エージェントから HPOM メッセージブラウザにアラートメッセージを送信して、ノードで有効になっている評価エージェントの有効期限に関する詳細情報を通知するよう設定することができます。

この変数を設定するときには、3つの整数値をカンマで区切って降順で指定する必要があります。

たとえば、次のようになります。

```
ovconfchg -ns eaagt -set ALERT_LTU_EXPIRY_DAYS DAY1,DAY2,DAY3
```

アラートメッセージは、評価 LTU の有効期限が切れる `DAY1`、`DAY2`、`DAY3` 日前に HPOM コンソールに受信されます。

デフォルトでは、この変数は 7、3、1 に設定されます。

アラートの無効化

アラートメッセージを表示させたくない場合は、次のコマンドを使用してカンマ区切りの整数値を `-1` に設定することで、アラートメッセージを無効にすることができます。

```
ovconfchg -ns eaagt -set ALERT_LTU_EXPIRY_DAYS "-1,-1,-1"
```

評価 LTU の有効期限が切れる前の特定の日にちにのみアラートメッセージが表示されるようにカスタマイズすることもできます。

たとえば、次のようになります。

```
ovconfchg -ns eaagt -set ALERT_LTU_EXPIRY_DAYS "-1,3,1"
```

アラートメッセージは、評価 LTU の有効期限が切れる 3 日前および 1 日前にのみ HPOM コンソールに受信されます。評価 LTU の有効期限が切れる 7 日前にはアラートメッセージは表示されません。

HP Operations エージェント 11.10 へのアップグレード

次のいずれかの製品または製品の組み合わせを、HP Operations エージェント 11.10 にアップグレードできます。

- HP Operations エージェント
- HP Performance エージェント
- HP GlancePlus

アップグレードを実行後、古い LTU は自動的に HP Operations エージェント LTU にアップグレードされます。ライセンスメカニズムは、古い製品に使用されている古い LTU を自動的に検出し、新しい LTU にアップグレードします。

表 3 は、古い LTU と新しい LTU の対応表です。

表 3: 自動 LTU アップグレード

古い LTU	使用可能な製品 または機能	新しい LTU	使用可能な製品または 機能
GlancePlus LTU	HP GlancePlus	Glance Software LTU	<ul style="list-style-type: none"> HP GlancePlus RTMA
Performance Agent LTU	HP Performance エージェント	HP Operations OS Inst Performance LTU	Performance Collection Component
Glance Pak Software LTU	<ul style="list-style-type: none"> HP Performance エージェント HP GlancePlus 	Glance Pak Software LTU	<ul style="list-style-type: none"> Performance Collection Component RTMA HP GlancePlus
Operations エージェント LTU	HP Operations エージェント	HP Operations OS Inst Adv SW LTU	<ul style="list-style-type: none"> 運用監視コンポーネント Performance Collection Component
OpsPerf Combo LTU	<ul style="list-style-type: none"> HP Operations エージェント HP Performance エージェント 	HP Operations OS Inst Adv SW LTU	<ul style="list-style-type: none"> 運用監視コンポーネント Performance Collection Component

LTU の自動アップグレード後、`oalicense` ツールを使用して、異なる LTU をノードで適用することができます。

注: HPOM コンソールからリモートでエージェントをインストールして HP Operations エージェント 11.10 にアップグレードする場合、HP Operations OS Inst Adv SW LTU (恒久) がノードで有効になります。

恒久ライセンスの削除

恒久ライセンスをノードから削除するには、次の手順を実行します。

1. 恒久ライセンスが有効になっているノードにログオンします。
2. コマンド プロンプト (シェル) を開きます。
3. 次のコマンドを実行します。

```
oalicense -remove -type PERMANENT <LTU>
```

ここで、<LTU> は LTU の名前です。

このコマンドにより、ノードにある指定した LTU の恒久ライセンスが無効になります。LTU で有効にしたコンポーネントを再度使用するには、`oalicense` コマンドを使用して、LTU の評価ライセンスまたは恒久ライセンスをノードで有効にする必要があります。

または、すべての恒久 LTU を削除するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -remove -type PERMANENT -all
```

4. 次のコマンドを実行して、すべてのエージェント プロセスを起動します。

```
opcagt -start
```


既存のLTUの変更

oalicense コマンドを使用すると、既存のLTUを別のLTUに変更できます。複数のLTUを同じノードに適用できます。HP Operations エージェント 11.10 にノードをアップグレードすると、アップグレードプロセスは自動的にLTUをアップグレードします。ただし、この場合、ノードでRTMコンポーネントまたはRTMAコンポーネントを有効にするには、oalicense ツールを使用する必要があります。

例 1

HP Operations OS Inst Adv SW LTU から HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU への変更

HP Operations エージェント 11.10 を HPOM コンソールからインストールする場合、ライセンスのタイプを HP Operations OS Inst Adv SW LTU に設定します。RTMコンポーネントまたはRTMAコンポーネントを使用する場合、HP Operations OS Inst Adv SW LTU を HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU に変更する必要があります。HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU に変更するには、次の手順を実行します。

1. HP Operations エージェントのインストール後、ノードで次のコマンドを実行し、既存のLTUを表示します。

```
oalicense -get -all
```

2. 次のコマンドで、HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU を適用します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "HP Ops OS Inst to Realtime Inst  
LTU"
```

このコマンドにより、LTU が HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU にアップグレードされます。その結果、HP Operations エージェントで RTM コンポーネントと RTMA コンポーネントを使用できます。

例 2

Glance Software LTU から Glance Pak Software LTU への変更

UNIX/Linux ノードのみ。 HP GlancePlus の古いバージョンから HP Operations エージェント 11.10 にアップグレードする場合、LTU は自動的に Glance Software LTU にアップグレードされます。HP GlancePlus 11.10 と共に HP Operations エージェント 11.10 の機能を使用する場合、次の手順を実行します。

1. HP Operations エージェント 11.10 へのアップグレード後、ノードで次のコマンドを実行し、既存のLTUを表示します。

```
oalicense -get -all
```

このコマンドは Glance Software LTU のリストのみを表示します。

2. 次のコマンドで、Glance Pak Software LTU を適用します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "Glance Pak Software LTU"
```

このコマンドにより、Glance Pak Software LTU が有効になります。

3. 次のコマンドで、LTU のリストを表示します。

```
oalicense -get -all
```

このコマンドにより、Glance Software LTU と Glance Pak Software LTU の LTU のリストが表示されます。

4. Glance Pak Software LTU は、HP GlancePlus 11.10 の機能を Performance Collection Component に統合するため、Glance Software LTU を削除できます。Glance Software LTU を削除するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -remove -type PERMANENT "Glance Software LTU"
```